

マイスターだより

川西町立小松小学校
令和7年12月1日(月)
文責: 情野 夏美

山形大学附属小学校に行ってきました!

先日、山形大学附属小学校の秋の研究協議会に参加してきました。学んできたこと、感じたことをご報告させていただきます。

研究主題
自ら問題解決を進める子どもたち

1、5年2組「割合」の授業より

【授業について】

教師対児童の一斉学習でした。タブレットは使わず、児童はノートのみの学習でした。一人で考える時間もありましたが、交流はせず、すぐに全体共有を行っていました。児童が説明する場面もありましたが、45分のほとんどが教師主導でした。

【感想・事後研で話題になったこと】

- ・導入時に既習事項を確認し、今日の学びへとつなげていた。
- ・解く際の見通しがないままに個人解決へと進んだので、解くのが困難な子もいた。
- ・ICTを使えば、児童の考えが瞬時に見ることができ、把握できそう。
- ・全体共有では、児童の少しの発言も見逃さず、板書していた。また、前時までの板書の写真が掲示されていたので、何を学習してきたのかがよく分かった。
- ・板書をすべて書き写す子もいれば、めあてのみで終わってしまっている子もいた。分かる子と分からない子、やる気のある子ない子の差をどうするか。

2、6年3組「比」の授業より

【授業について】

こちらも教師対児童の一斉学習でした。タブレットは使わず、児童はノートのみの学習でした。一人で考える時間の際、近くの席の友達と自然と交流する姿が見られました。全体共有では、児童の言葉を拾って、板書していました。

【感想・事後研で話題になったこと】

- ・問題掲示を電子黒板で行っていた。イラストがあってわかりやすかった。
- ・学級活動の話し合いのような形だった。答えをめぐって、議論していた。
- ・正解を求めるところまではいかなかった。まとめもなかったので、児童の疑問が残ったまま終わってしまったように感じる。
- ・児童がのびのびと考えを話す意欲的な姿が見られた。一方で、軌道修正する難しさを感じた。

3、全体を通して

- ・教科書の大切さ→今回は一切開いていなかったが、児童自身が教科書を読み込み、使いこなせるようになることが大事だそうです。私もその話を聞いて、はっとしました。
- ・ICTの活用→なんでもかんでも使えばいいというわけではないが、幅は広がる。

※教科ごとの話し合い、鼎談については、回覧するメモをご覧ください。